

学位被授与者氏名	秦 祺 (しん き)
論文題目	大正四年、五年漢口日本人実業協会年報の研究
論文審査結果の要旨	<p>そもそも元日本駐漢口総領事館総領事水野幸吉氏は、古くから明治末期までの武漢地区の政治、経済、風土などを詳しく調査し、『漢口—中部支那事情』という本にまとめた。『大正四年、五年漢口日本人実業協会年報』はそれに続く経済活動に関する調査報告である。『漢口』は中国で出版されたが、『大正四年、五年漢口日本人実業協会年報』は中国でほとんど知られていない貴重な史料である。本研究によって、『年報』のデータは『漢口』から引用した部分が多いことが明らかにされた。</p> <p>また、『大正四年、五年漢口日本人実業協会年報』を解読し現代中国語に翻訳する際、多くの歴史事実を判明した。とくに大正四年は第一革命から第二革命、欧州戦争、排日運動、帝政問題などの現象が頻発したにもかかわらず、日本商人の貿易額が新記録に示し、輸入方面において、日本が第一位を占めるようになったことを原始史料で明らかにした。</p> <p>最も重要なのは、論者が湖北省出身の中国留学生として、大正初期に書かれた句点のない「漢字平仮名交じり文」の古い日本語文章を解読する上、現代中国語に翻訳することは、武漢市史研究の空白を埋めるものである。論者は特に古文の構造、特殊用語、とりわけ経済方面の度量衡単位の解明などに腐心した。論者はこれからこの二冊の書物をさらにきちんと整理した上で、今年中にも中国で出版し、多くの中国研究者の役に立とうと考えているようである。</p> <p>したがって、本研究は修士論文の基準に到達し、価値の有するものと認める。</p> <p>平成 28 年 2 月 16 日、北九州市立大学北方キャンパス 3 号館 320 教室において、審査委員全員出席のもとで最終試験を実施して学力を確認し、論文の説明を受け、質疑応答ののちに、全員一致で当該論文が修士(中国言語文化)として十分な内容であると判定した。</p>